

地域包括支援センターからのお知らせ

住み慣れた地域で生活し続けることができるように

地域包括支援センターでは、みなさんがいつまでも住み慣れた地域で生活し続けることができるように支援しています。

平成 30 年度からは新しい事業も始まっていますのでご紹介します。



事業紹介

認知症初期集中支援事業

町では認知症サポート医、保健師、社会福祉士で認知症初期集中支援チームをつくり、活動しています。ご家族のことやご自身のこと心配なことがあれば、まず地域包括支援センターにご相談ください。

必要に応じて認知症初期集中支援チーム員が自宅などを訪問します。かかりつけ医への相談や専門医療機関への受診調整、介護サービス等につなげたり症状に応じた対応と一緒に考えていきます。

在宅医療・介護連携推進事業

在宅での療養・介護を切れ目なく、安心して生活できるように有田医師会在宅医療サポートセンターに事業内容の一部を有田郡 3 町で委託しています。

例えば、「脳梗塞などで大きな総合病院に入院していたけど、退院して自宅療養するように言われた。でも近所で診てくれる医院がわからない。」などさまざまな問合せに対応しています。(有田医師会在宅医療サポートセンター ☎ 090-6970-6303)

配食サービス

平成 29 年度まで社会福祉協議会で行っていた配食サービスを町の財源で行うようになりました。

対象者の方と自己負担額が少し変更となり、65 歳以上の一人暮らしの方や、65 歳以上のみの世帯またはこれに準じる世帯の方です。ただし、いずれも見守りや安否の確認が必要な方(アンケートで判断します)です。一食 200 円です。申込みは広川町社会福祉協議会又は地域包括支援センターまで。

家族介護用品支給事業

要介護 1～5 の認定者であって、かつ常時失禁状態である方で、所得税非課税世帯に属する方を対象に紙おむつ等の介護用品を支給します。

▶詳しくは、住民生活課地域包括支援センター (☎ 23 - 7724) まで

短期集中型予防サービス (通所型サービス C)

65 歳以上の方で、要支援 1、2 の認定者、または町が実施する基本チェックリストで総合事業対象者と判定された方で、かつ本事業の目的及び内容を理解し自立を目指し機能訓練に取り組む意思のある方に、機能向上に向けた訓練を 24 回無料で提供します。

※介護予防通所リハビリテーション、介護予防訪問リハビリテーション通所型サービスを受けていない人が対象です。



脳ドック検査 (人間ドック検査) を実施します

現在、脳血管疾患はガン・心疾患と共に我が国 3 大死因の一つとなっております。



当町においても年々増加傾向にあります。これまでに脳ドックを受検し、早期に発見・治療をしたことにより重症化が防げたケースもあります。

今年度も 8 月より、西岡病院、亀井クリニック、国保日高総合病院の三医療機関に委託をして脳血管疾患の予防・早期発見のための検査を実施します。

この脳ドック検査は町民の健康水準を向上させることを目的としている事業のため、受検後は保健師が結果を把握し、治療や生活改善の必要がある方に対して保健指導を行うことになっていきます。

受検を希望される方は、次の日程で住民生活課までお申し込みください。
また、昨年度に引き続き人間ドック検査も先着 10 名で実施しま

すので、受検を希望される方は、お申し込みください。

■申込受付開始日時

6 月 15 日 (金) 午前 8 時 30 分

■申込場所

住民生活課給付班

■持参する物

印鑑、国民健康保険被保険者証または後期高齢者医療被保険者証

■対象者

広川町在住の国民健康保険被保険者で 40 歳以上の方、または後期高齢者医療被保険者の方

※なお、国民健康保険税、後期高齢者医療保険料の未納がある場合は、申し込みを受付できないことがありますのでご注意ください。

※脳ドックと人間ドックのどちらか一方の受検となります。

また、今年 4 月 1 日以降に特定健診を受けられた方及び今後受診予定の方については、人間ドックの受検はできませんので、ご了承ください。

※人間ドックは、胃カメラ限定となります。

◆自己負担額 (脳ドック)

- ・国民健康保険被保険者の方 / 先着 90 名
国保日高総合病院 50 名
亀井クリニック・西岡病院 40 名
- ・後期高齢者医療被保険者の方 / 先着 10 名

亀井クリニックと西岡病院	受検料 23,850 円のうち、自己負担額 4,850 円
国保日高総合病院	受検料 43,000 円のうち、自己負担額 13,000 円

◆自己負担額 (人間ドック)

- ・国民健康保険被保険者の方 / 先着 10 名

済生会有田病院	受検料 38,000 円のうち、自己負担額 8,000 円 (7 月～9 月は実施されません。)
健診センター・キタデ	受検料 43,200 円のうち、自己負担額 13,200 円
日本赤十字社 和歌山医療センター	受検料 41,720 円のうち、自己負担額 11,720 円

※料金は受検時に医療機関へお支払いください。(差額は加入されている保険から負担します。)

※受検日等につきましては、申込み時に説明させていただきます。

ドック事業の流れ

■役場へ申込み (受検日等調整)



■役場より受検承認書、医療機関より問診票を受検者の自宅へ



■12 月末までにドック受検 (医師より受検者へ結果説明)



■役場へ結果通知



■必要に応じて保健師による保健指導



▶詳しくは、住民生活課 給付班 (☎ 23 - 7724) まで

特定健診、がん検診を受けましょう

受診料：無料

7月から8月の集団健診の日程

■健診対象者

- ・特定健診 40～74歳の広川町国民健康保険加入者
後期高齢者医療保険加入者
(65～74歳で一定の障害認定を受けている方、75歳以上の方)
- ・胃・肺・大腸がん検診・・・40歳以上の住民
- ・前立腺がん検診・・・・・・50歳以上の男性
- ・子宮がん検診・・・・・・20歳以上の女性
- ・乳がん検診・・・・・・20歳以上の女性

(特定健診・胃・肺・大腸・前立腺がん検診)

検診日	対象区(場所)	申込締切日	受付時間
7月27日(金)	広東 広文化会館	7月5日(木)	午前8時～ 午前8時30分

(特定健診・胃・肺・大腸・前立腺・子宮・乳がん検診)

検診日	対象区(場所)	申込締切日	受付時間
8月5日(日)	全地区 保健福祉センター	7月13日(金)	午前8時～ 午前9時

※胃がん検診にはバリウムを使用します。

※65歳以上の方で、肺がん検診を受診された方は、結核健診も同時に行います。

※特定健診、子宮・乳がん検診は有田郡市内指定医療機関でも受診することができます。

希望される方は住民生活課保健師までご連絡ください。

健診期間は、平成30年4月1日～平成31年3月31日までです。お一人様各種健診(検診)それぞれ1回限りの受診となります。

▶詳しくは、健康づくり推進地区委員または住民生活課保健師(☎23-7724)まで



忘れずに提出してください

6月中に「児童手当現況届」の提出を

児童手当を引き続き受給するためには、現況届の提出が必要です。

この届け出は、6月1日における状況を記載し、引き続き手当を受給できる要件があるかどうかを確認するためのものです。

届け出を忘れますと6月分以降の手当を受給できなくなりますので、必ず6月29日(金)までに住民生活課へ提出してください。

■児童手当制度

この制度は、家庭等における生活の安定に寄与するとともに、次代の社会を担う児童の健やかな成長に資することを目的としています。

■支給額(月額)

所得制限額未満である者	
3歳未満の児童	1万5千円
3歳以上小学校修了前	(第1・2子) 1万円
	(第3子以降) 1万5千円
中学生	1万円
所得制限額以上である者	
特例給付	5千円

▶詳しくは、住民生活課保健福祉班(☎23-7724)まで



いつも「広報ひろがわ」を応援していただきありがとうございます。昨年発行した広報ひろがわ12月号が平成30年全国広報コンクール広報紙部門(町村部)にて2年連続で入選しました。12月号では「こころの居場所」と題して、16ページにわたり、精神疾患に関する特集

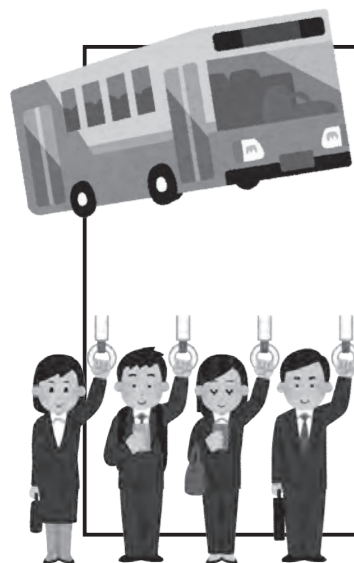
を組んでいました。審査員の講評は下記のとおりです。



審査員講評

特集「こころの居場所」は、うつ病、躁うつ病などの精神疾患を取り上げている。いまや周囲に心の問題を抱えた人が誰もいないという人のほうが少ないかもしれない。後半ページではテーマを広げ、互いに支え合う町づくりを訴えている。特集以外では、「今月のスター」やイベントのレポート等に幅広い世代の住民が登場し、好感がもてた。

みなさんのおかげで広報ひろがわが全国広報コンクールで入選
広報ひろがわ12月号が
全国広報コンクールで2年連続入選



▼詳しくは、企画政策課(☎23-7731)まで

身近な交通手段をみんなで守ろう
路線バス利用のお願い
 路線バスは、交通手段を持つたない方にとって日常生活に欠かすことのできないものであるだけでなく、「公共交通を利用する」という体験学習の役割も担っています。
 広川町には現在2系統の路線バスが運行していますが、年々利用客数が少なくなっており、このままでは廃線してしまう恐れがあります。高齢者の免許証返納運動やマイカー自粛による排ガス抑制などの環境問題への取り組みが行われている今、ほたるの湯や湯浅駅、済生会有田病院へのお出かけの際は是非とも路線バスを利用し、身近な交通手段を守っていきましょう。